

■■ INDEX ■■

■■ 2020年10月:特集レポートダイジェスト ■■

特集①)

首都圏版:お客様意識調査 (2020年10月調査)  
＜新政権の政策の影響ほか＞

P.1～17

- 【1】 首都圏モニター: 定点項目のDI動向
- 【2】 来訪者: 「住宅の買い時感」「検討状況」
- 【3】 「新政権の政策」の自身への影響・「GO TOキャンペーン」の利用意向
- 【4】 年代別「景気動向」「住宅の買い時感」「検討状況DI」動向(首都圏モニター)
- 【5】 住宅購入「検討層」「一時見合わせ層」の今後の購買行動について

特集②)

最近のマーケットピックス

P.1～11

- 【1】 『単身世帯』の購入動向(長谷エアベスト販売提携物件購入者)
- 【2】 10月新規スタート物件事例

特集①) 首都圏版:お客様意識調査(2020年10月調査)  
＜新政権の政策の影響ほか＞

2020年10月調査は、景気等、今後の見通しについて各指標でDI値が改善。コロナ禍が続く中、住宅の買い時感・購入検討状況のDI値は、コロナ禍以前の年初と同水準まで回復がみられた。

年代別でみると、20～30代の若年層において、景気・住宅の買い時感・購入検討状況のDI値が全体に比べて高く、新政権の政策をプラスに捉える声やGo Toキャンペーンの利用に積極的な声が聞かれている。

本レポートでは、景気・金利・マンション価格・住宅の買い時感・購入検討状況の定点項目のほか、以下についてまとめた。

＜分析項目＞

- ◇新政権の政策: 自身の生活へのプラスの影響
- ◇Go To キャンペーンの利用経験・利用意向
- ◇住宅購入「検討層」「一時見合わせ層」の今後の購買行動 等

特集②) 最近のマーケットピックス:

【1】『単身世帯』の購入動向 【2】10月新規スタート物件事例

新型コロナウイルス感染拡大以降(2020年4月以降)の新築マンション購入者の傾向をみると、「20代後半～30代」「プレファミリー・ファミリー」の「借家層」の動きが順調。秋商戦のマーケットを牽引している様子が窺える。

そうした中、【1】として、「その他のターゲットの動きはどうか?」について、近年、世帯が増加傾向、また今後も増加が見込まれる『単身世帯(1人世帯)』の購入者を分析。年齢構成や男女比率、購入面積×価格、コロナ禍での検討・購入理由、単身世帯の購入が多い物件の特徴などをまとめました。

～次号(2020年11月)の予定～

◆特集レポート

・2020年首都圏新築マンション市場まとめ